



森のなかま

2012年 8月号
NO.52 (継続197)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 久保 重明
〒243-0014 厚木市旭町1丁目8-14・グリーン会館 TEL046-280-4101・FAX046-280-4102



原点 回 帰 (Go back to the basics)

『かながわ森林インストラクターがやっていること』



森林
部会



植樹や下草刈り、枝打ち、間伐などの作業指導を行うとともに、森の手入れの意義や森林の機能についての解説を行います。また、豊かな森林づくりのための整備活動を行います。

自然観察
部会



森を探訪しながら、森林の機能やそこに生息する生き物の生態および人との関わりについて解説し、森の楽しみ方を案内します。県内各地で自然観察会や「森林探訪」を開催しています。

森林文化
部会



森からのめぐみを使った木工・クラフト・紙すきなどの製作指導や中山間地域に培われてきた伝承文化、民俗、自然との共生の知恵を学ぶお手伝いをします。

普及啓発
部会



森林の大切さを県民に伝えるとともに、市町村、学校、企業、団体等の森林・林業に関する各種イベントや学習講習などの開催についての企画や推進の支援をします。

森林癒し
部会



森の中で五感を使った散策などを通し、森林が人の心や身体に及ぼす働きを体験できます。心身の疲れを癒し、健康でこころ豊かな生活ができるようお手伝いします。

やどりき事業部



会の活動拠点。529ヘクタールのやどりき水源林をベースに森林整備、自然観察、森林癒し、森林文化などの活動を行っています。水源林を巡る「森の案内人」や「成長の森の案内人」を行っています。



緑の募金 支援団体としても取組んでいます。全国で5番目/NPO法人で初委託されています。

6月23日(土)

『やどりき周辺の山歩き(本年度第1回) - 雨山ダイレクトルート』

(記: 8期 三浦 雄二)

我々のフィールドであるやどりき水源林を構成する山々をもっと良く知りたいということで始まった「やどりき周辺の山歩き」の本年度第一回目として、寄沢から雨山頂上まで直接登るルートの踏破を目指し、6月23日(土)に10名の参加者で山歩きが行われた。

地図を見れば分かるように、雨山頂上から寄沢へは水棚沢の北側に大きな尾根が伸びており、今回はこの尾根を直接登るルートをとった。台風4号と、その二日後の5号くずれの低気圧による暴風雨の直後だったため、先ずは増水した寄沢を渡るのに流木を渡したりと苦労したが、ちょっとしたスリルも楽しむことが出来た。ルートは22年度成長の森の上部へ出て、後は尾根沿いに雨山の頂上に至るというものだが、植林地帯なので当然昔の作業道があったはずで、実際尾根から外れないように登っていくと、歩かれなくなって久しいと思われる作業道が見え隠れしており、また入口の扉が外れた鹿柵を2回くぐった。ルート中には大きなヤマボウシやアカマツが有り、今後登る時には良い目印となるように思う。



クマ剥ぎの現場

途中で、いつも人が入る普通の作業道では見る事の出来ないクマ剥ぎの現場を見た。昨日今日剥いだのではないかと思われる木肌に歯跡が縦に筋状に付いており、皆その生々しさに確かにこの辺にクマがいるのだと云う事を実感した。



頂上に近いブナの林では、台風で枝が多く落とされ、普段なら中々間近に見ることは出来ない枝に付いた赤っぽいブナの実を手にとって見る事ができた。また未熟な実が沢山落ちており、今こんなに沢山の実を落としては、秋に動物達の食糧が少なくならないかと皆で心配した。



実が付いたブナの落枝

雨山頂上では樹雨(きさめ)の中での昼食となった。下りは雨山峠から寄沢に下りる計画だったが、増水した沢を何回も徒渉するのはむずかしいとのリーダーの判断で、桧岳から作業用モノレール沿いに下るコースを取った。このルートも昔の作業道がところどころに見え隠れし、モノレールから離れなければ迷うことなく登り降りすることのできる良いルートだと思った。

この日は山には一日中雲がかかり、中腹より上ではずーっと霧の中だった。



霧の中、ヤブデマリの花を見る

その墨絵のような世界に浮かぶ、花盛りのヤブデマリ、ヤマボウシ、ウツギなどの白い花々がとてもきれいに見えた。



休憩時、地図を確認

初めての道なきルートを登ると云う事で地図とGPSでの高度、位置確認などをしながら、また普段中々見られない光景に感嘆したりと、いつもとは一味ちがう山歩きを皆が楽しむことができたと思う。

参加者 : L佐藤⑤、S L三浦⑧、滝澤⑤、飯澤⑨、辻村⑨、大澤⑩、上宮田⑪、赤崎⑫、石川⑫、門澤⑫

私の認識

野鳥その100

高橋 恒通



百回



“野鳥への興味と関心を——”の願いで書かせて頂き100回に至り有り難く御礼申し上げます。
現在114回迄書き貯めていますが、120回/10年の節目で断筆とさせて頂く予定です。

本稿通算百回目の記念すべき節目にご案内するガンカモ目ガンカモ科の野鳥は、我が国で観察できるカモの中で、バーダー達ばかりでなく一般の人にも人気の高いオシドリ(漢和名:鴛鴦、英名:Mandarin Duck、体長L=♂48cm、♀41cm)についてです。

留鳥または冬鳥、そして東北地方以北ではほぼ夏鳥と言われているオシドリは話題満載の野鳥の代表格だと私は認識しております。

故に何から説明しようか…と迷いますがやはり♂の体色姿形から始めましょう。



前稿のカルガモが♂♀判別困難の代表とすると、オシドリはその対極に位置しています。

♂の体色は部位それぞれにありますので仔細に説明すると紙数が嵩みますから最大のポイントのみにします。それは“銀杏羽”と“呼ばれ大形”で屹立した羽根です。細白線で縁取られた橙色のそれは三列風切の1枚、即ち両翼1枚づつがまるで背面後部を覆う如く立ち上がり、側面から見る鳥全体の姿を特徴付けております。そして赤い嘴、白く太い眉斑、喉から頸部にかけて橙赤色の飾り羽が目立ちます。これに対し♀は地味で、赤黒い嘴、全体が灰褐色、白色細線のアイリングとそれから目の後方に伸びる白線が特徴です。尚、♂♀共通のポイントは上嘴の先端に円形で白っぽいマークです。

何はともあれ♂の体色容姿は、人間が造ったのなら間違いなく“ド派手でサイケデリック”と評される筈なのに、造化の神の手による為、探鳥会参加者誰もが一様に「あ〜綺麗!」「素晴らしい!」と発声する魅力たっぷりの愛すべきものと私は認識しております。

オシドリの棲息環境は湖沼、池、溪流、河川などですが、冬季には群れで、県下ならば相模原貯水池(沈殿池)に毎年来ています。

日中は樹木の陰などで休息し、夕方になると採食場へ行きドングリ等を食し、寝ぐらは水辺の木の枝に止まって眠ると言う行動様式が知られております。オシドリの世界地図上での棲息領域は極東の限られた地域です。繁殖は我国でも少し行われていますが多くは中国東北部です。

NHKの“ダーウィンが来た!”で大木の樹洞で育った雛が、巣立ちの時に樹洞から飛び出して十米位の高さから地上に落下する映像を見て、改めて自然で生きる厳しさを認識させられたのは私一人では無いと思っています。

さて、オシドリは“オシドリ夫婦”とか“鴛鴦の契り”とか言われて夫婦仲の良い事の見本の如く人口に膾炙されていますが、その実態は“不倫浮気も在りますヨ”だそうです。

野鳥は原則、♀に選ばれない♂は自分の遺伝子(生体設計図)を残せないと言われますので、オシドリもその例外では無い筈です。

だとするとオシドリの♀からのアプローチがその原因かも知れません。

人間の世界では、昔はアランドロン、昨今はヨン様にヒートアップする女性の姿に共通する部分を感じる私は間違ってますか?

所でオシドリは山形県、鳥取県そして長崎県の県鳥に指定されております。因みに山形県の県木はサクランゴ、県花はベニバナです。鳥取県の県木はダイセンキョロボク、県花はニジュセイヤナシの花です。そして長崎県の県木はヒノキ、県花はウンゼンツツジです。

<参考資料>

◎日本の野鳥, 山溪ハンディ図鑑 7, 写真・解説/叶内拓哉, 分布図・解説協力/安部直哉, 解説(鳴声)/上田秀雄, 山と溪谷社

◎野鳥, 山溪フィールドブックス 4, 写真/叶内拓哉, 解説/浜口啓一, 山と溪谷社

◎日本の野鳥, 山溪カラー名鑑, 編 高野伸二, 解説 浜口啓一, 森岡照明, 他, 山と溪谷社 ◎イラスト 広報部 大塚晴子

第6回森林癒し講演会

『森林の癒し効果を科学する～森林浴から森林セラピーへ～』

講師：宮崎 良文 様

平成24年6月24日、桜美林大学プラネット渕野辺キャンパスにて、森林癒し講演会が開催され宮崎 良文先生のお話を伺いました。



当日、100名を越える参加者においていただき昨今の森林セラピーへの関心の高さに驚き、この先のさらなる広がりと必要性を強く感じました。また、インストラクター以外の方の参加がたくさんおられ、森林の癒し効果とともに、かながわ森林インストラクターの活動を知っていただけるよい機会になったのではないのでしょうか。中には学生の方も数名おられ今後の展開を考えた場合、画期的な第一歩だったと思います。

講演では太古から人間の生理的機能は自然の中で作られてきたもので、人工化により現代人はストレス

状態にありその現代人が自然からの刺激を受けることで元来、人としてあるべき姿に戻りストレスホルモンの減少や免疫力向上などの予防医学的効果が生まれる。これらの効果の科学的評価を宮崎先生に事例とともに解説していただき、日ごろ自分たちが森に入り感じている心地よさは、紛れもなく体の中で反応が起き感じているということ学び納得しました。また、個人差が大きい快適性と感性についても触れられ、インストラクターとして利用者様に『癒し』を感じていただくには、その個人差の大きい快適性と感性に対応していけるだけのインストラクターのレベルアップが重要だと強く感じました。講演後多くの質問があり、閉会後も参加者の皆さんが宮崎先生に熱心にお話を伺っていたのを見て、今回の講演会が大変有意義なものだったと実感しました。

今回、講演開催にあたり運営のお手伝いをさせていただきましたが、部会員のチームワークの良さや各メディアへの積極的な広報活動と関係各所への働きかけ、運営計画、さまざまな活動を通して部会運営を学ばせていただくこともできました。また、後援いただいたかながわトラストみどり財団並びに、会場使用・学生対応で協力いただいた桜美林大学はじめ、多くの関係機関・団体の皆さんに、大変感謝したいと思います。

講演内容は学術的で難しいところもあったかと思いますが、森の中での『心地よさ』はインストラクターの方、皆さん実感されているのではないのでしょうか。森を整備し、森と人をつなぐ私たちの活動をますます広げてこれからも多くの人と『心地よさ』を共に実感していけたらとても嬉しいことと思います。

〈文責：森林癒し部会 7期 若林良子〉



宮崎 良文氏：医学博士、

千葉大学環境健康フィールド科学センター副センター長、
教授

活動短信

6/6～6/24

紙面の都合上、次号になるものもあります。

予めご了承下さい

◆ 横浜市立中山小学校 林業体験

日 6月6日(水)、13:00～14:30、雨時々晴れ

場 愛川ふれあいの村

参 5年生 57名、教師 10名

イ L塩谷⑦ 島岡③ 小野⑦ 清水⑧

村井⑨ 松本⑪

長竹承継分収林での間伐体験であったが、台風の影響で降雨の為、室内学習に変更。愛川ふれあいの村集会所にて、6班編成で各1インストラクターと車座になり、一方的な話でなく都度、子供達からの質問に答え出来るだけコミュニケーションを図りながら学習を進めた。

共通テーマは、私達の暮らしと森林の係わりや、林業に関する話を中心に行なった。各インストが工夫をこらしそれぞれ自前の資料を用意して臨んだ。

教室での座学と違い、班10名位なので子供達の顔や目の表情が良く解り、こちらの話にも良く反応してメモをとったり、多くの質問が出た。全体90分で、後半の20～30分を外に出て園内の観察を行なった。

木々の緑ときれいな空気、大きなトゲのハリギリや、カエデのプロペラ種、木の臭いなど植物の生き方を話したら、スゲー！などの声があがった。

インスト反省会では今回の学習スタイルは概ね好評。今後、雨天の時などに行なう学習スタイルの一つとして活用出来るものと思う。(記 7期 塩谷 弘道)

◆ 自然観察部会 研修会 弘法山

日 6月2日(土)9:30～15:30、晴れ

下見 5月24日(木)9:30～15:30、晴れ

場 県立自然公園(特別地域) 弘法山

参 講師：野田 重雄 様⑧ 女川 修 様⑨

受講：長谷山③ 三浦⑧ 小林(富)⑩ 杉崎⑩

上宮田⑪ 鳥飼⑪ 松浦⑪ 松永⑪

赤崎⑫ 岡田(華)⑫ 小池⑫ 渡辺(敏)⑫

秦野駅に集合し2班に分かれて弘法山を目指す。水無川の河川敷は格好の勉強の場だ。丹沢山系から流れてくる水の瀬音を耳にしながらしロツメグサ、コメツブツメグサ、ヤマグワ、クズ、・・・何と言うこともない植物から話が展開する。講師の技に参加者は大いに啓発される。わずか20

0mほどの距離で自然を楽しみながら解説する醍醐味だ。登山道にとりかかる道の脇には、オニグルミの大きくなった実、カラムシの群落、講師のお話と自分のアイデアが頭の中で融合し、次の出番のときはああしよう、こうしよう夢は膨らんでゆく。昼食後の後半は参加者にも話をする機会が与えられ、緊張しながらも楽しい。前の班との距離のとり方、前が詰まったときのとっさの対処のしかた、などは本当に必要なことだ。自分に何が足りないか、自覚した貴重な研修だった。参加者が12名と少なかったのは、なんとももったいない。無論、参加者にとっては講師を少数で独占できてありがたかったのだが。

(記 11期 鳥飼 一俊)

◆ 横浜市立南小学校 21世紀の森周辺の自然観察

日 6月5日(火)9:00～16:00、曇り

場 洒水の滝～21世紀の森

参 5年生 80名、教師 13名

財 古舘 様

イ L堀江④ 武者⑦ 高崎④ 斉藤(武)⑥ 山崎⑦

松本(洋)⑧ 小沢⑨ 杉崎 ⑩ 計 8名

足柄体験学習と活動名にある通り、2班に分かれた生徒たちは1班 洒水の滝から21世紀の森までの自然観察とハイキングを、そして2班の21世紀の森班は午前中に木工を実施して天然の森を登りセントラル広場で食事後展望台から森林館に下山、洒水の滝班はセントラル広場で食事後、天然の森を通り森林館に下山し木工を実施する。

15時にバス出発が予定されているためかなりタイトな時間構成であったが何とか予定通りの計画を達成できた。両班共に自然観察が十分楽しめたとの子供たちからの報告があり、安全とともにインストラクターの指導が行き届いていたことを感謝したい。

*インストラクターとしてはまず安全を第一に子供たちの行動に注視し、危険箇所(あまりなかったが)での指示などを重点に21の森周辺の自然(特に植物や昆虫)について楽しいレクチャーをした。

(記 4期 堀江 精三郎)

◆ 24年度 川崎市里山ボランティア育成講座 第2回

日 6月9日(土)9:30～15:00、雨

場 新川崎・創造のもり&さいわいふるさと公園

参 一般市民による講座メンバー34名

スタッフ 川崎市公園緑地協会ほか8名

イ L 金森⑩ 清水⑧ 小林⑩ 福島⑪ 門澤⑫ 山崎⑫

全6回講座の第2回目。雨であったが事前に雨天実施を周知したので参加率は良い。3つの講義を行った。

1. 清田陽助氏から「森の調査法。記録の付け方、残し方」:「見る・観る・診る」の違いから森の見方、木の見方をわかりやすく説明。

2. 馬場しのぶ氏から「樹木のはなし。見方、覚え方①」:自身の経験をもとに樹木を覚えてゆくうえでの楽しさや喜びが参加者に伝わった。

3. 石原和子氏から「樹木のはなし。見方、覚え方②」:より具体的な葉の見方などを実物の葉を手にとって説明された。実習現地(徒歩3分)する。

午後は、班にて課題検討を行う。模擬調査として“樹木位置調査票”に書き込み、その“毎木調査票”を現地見学を参考に仕上げる。調査地の印象や整備の方向性を話し合い、発表を行う。次回、第3回目は7月7日(土)高津消防署にて救急法講習、熊野森緑地にて下草刈。

(記 10期 金森 巖)

◆県民参加の森林づくり体験講座 (下刈り)

日 6月10日(日)9:00~13:00、晴れ/曇り

場 南足柄市内山(風切水源林)

参 一般県民 20名

スタッフ 財 内海 様 古舘 様 看 青木 様

講話 川又 様(川又林業)

イ L 柴⑪ 宮本⑥ 白畑⑦ 山崎⑦ 松山⑩

山下⑪ 東⑫ 佐藤⑪

9日が雨で流れ、参加者が半減したため、4版を2班に編成しなおし、4区画の予定を2区画に変更して実施。

リーダーより、下草刈りの意義、作業方法説明後、ストレッチを行い現場まで移動。保護すべき木は、7~8年生のヒノキ。初心者の方4名は傾斜の緩い場所に配置。

前日と打って変わって、作業時には晴れて気温が高くなったため、インストラクターから、適度な休憩と水分補給の注意が出されながらも、予定時間前には終了。

その後、東屋まで異動し昼食後、川又林業の川又さんより林業の現状と手入れされている森とそうでない森の箱庭で、雨が大量に降った時の違いについての実験があり、山の手入れの重要性を目で確認できたため、参加者から

よく理解できたとの声があった。廻りのイヌシデの木にガ(クスサン)の繭(スカシタワラ)が多くあり、昔はこの繭をほどこいて釣り糸に使ったと聞いて、一同感心していた。

(記 11期 佐藤 義和)

◆横浜市立中川小学校

自然散策しながら林業の話 (箱根体験学習)

日 6月14日(木)9:00~13:00、晴れ

場 県立21世紀の森 天然の森~セントラル広場~内山林道

参 5年生 174名、教師他 14名

イ L 村井⑨ 島岡③ 渡辺③ 高橋③ 足立④ 宮本④ 山崎⑦ 伊藤⑦ 野田⑧ 松本(洋)⑧ 小沢⑨ 内野⑨ 海野⑩ 杉崎⑩ 松本(保)⑪

箱根体験学習の一環として、21世紀の森を訪れた中川小学校、元気な子供たちのスローガンは「楽しく学び、笑顔で協力、ハッスルゴーゴー、箱根へ“GO”」です。188名が長い列を作り、標高差250mを駐車場から天然の森コースを登り、セントラル広場へ。富士山を望む展望所近くで昼食。林道を下りました。

学校からの希望内容は ①森のはたらき ②森林のつくり方 ③木の使い方 ④里山について ⑤生態系について ⑥ボランティア活動 でした。

実験をしたり、実物を見せたり、匂いをかいだり、さらに手で触ったり、味見をしたりと、フル活動の自然散策でした。

山を歩き、おいしい空気を吸い、林業に関する勉強が出来た子供たちの笑顔。それに手助けできたインストラクター達。ヒヤリハットもなく、梅雨の晴れ間の楽しい一日でした。

(記 8期 松本 洋子)

◆横浜市立西寺尾小学校 野外体験学習

日 6月19日(火)13:30~19:00、曇り

場 横浜自然観察の森

参 4年生 62名、教師 9名

イ L 渡辺③ 堀江④ 宮本④ 杉戸⑥ 斉藤⑥

伊藤⑦ 渡部⑦ 野田⑧ 小沢⑨ 海野⑩

梅雨前線と台風4号の影響で今にも泣き出しそうな空模様の中、生徒達はアキアカネの丘に集合し昼食。昼食を済ませ全員雨具を着て班別に出発。先ず炭焼窯を見学、生態園で暗い林、明るい林を体験。リニューアルされた自然観察センターの展示物を見学。モンキチョウの広場へ

向う。広場の四阿でレンジャーから五感を使った観察ポイントや危険な動植物についてレクチャーを受け改めて班別に出発。思いの外、天候も大きく崩れることなく、ほぼ予定のコースを観察することができた。アキアカネの丘に戻り班別に感想を聞き纏めとした。豊かな緑の林、草地、湿地、川、池、地層など変化に富んだコースを歩き自然観察を通して自然に親しみ、楽しく学習し自然の大切さを育められたことと思います。ホタル観察は、台風接近により夜間の行動は危険を伴うため事前に中止とした。

18時半、班ごとにテーブルにつき夕食をとりながら質問や振り返りなど楽しい一時を過ごし、別れを惜しみながら解散。風雨激しくなる。(記 10期 海野 充弘)

◆宇津木の森再生プロジェクト2012 第1回市民活動

- 日 6月24日(日)9:30~15:00、晴れ
 場 八王子市久保山 2-1 宇津木台緑地(八王子市所有)
 参 大人15名+子供1名(小2)、計16名
 スタッフ 森遊会代表 ; 金森 巖^⑩氏
 イ 松山^⑩

活動地、宇津木台緑地は約4haの荒廃した八王子市所有の雑木林である。昨年4月、オリンパス従業員有志が、この緑地を健全な森に再生したいとの思いで『宇津木台森遊会』を発足させた。その後、市から緑地の使用、道具の貸与、傷害保険の負担等の支援をうけて、毎月第4日曜日を活動日と定めて励んでいる。会の活動は、「市民に憩いの場」を、「子供たちに環境教育の場」を提供し、地域社会に愛される森づくりを目指して、参加者のレベルに合わせた継続可能な活動を行っている。

この度は市民参加の第一回活動日。午前中は鋸を使ってアズマネザサの駆除作業。作業に先立ち、熱中症対策と安全な作業の仕方を説明して、斜面に群生している笹刈りに挑戦して頂いた。全員暑さに負けず快い汗を流した。昼食後は林内を散策しながらの観察会、以下①②は金森代表が担当。①前日仕掛けて置いた昆虫トラップの調査、小2の昆虫大好クンは、大はしゃぎで周囲の大人たちを和ませていた。②内視鏡で巣箱6個と樹洞数箇所をそっと覗いて中の様子を観察。巣箱4箇所でシジュウカラの巣(内1箇所では親鳥が抱卵中、3個は使用済み)を発見、樹洞ではクワガタを確認した。③植物観察は、ホタルブクロ、オカトラノオ、一葉草の花とマユミ、ヌルデ、ツタウルシなどの説明をした。終了後、道具の手入れを済ませ、

次回活動7月22日の再会を約し15時解散。今年度の活動は、あと4回予定されているが、いずれも午前中は森林整備、昼食後はアトラクション、参加者に楽しく過ごして頂くという企画で、地域社会に貢献している。

(記 10期 松山 隆治)

◆知ろう！ 神奈川の自然

- 日 6月24日(日)10:00~13:00、晴れ
 場 21世紀の森
 参 大人80名
 スタッフ テレビ神奈川 清水清氏他10名ほど
 イ L鳥飼一俊^① 山崎實^⑦、杉崎恒三^⑩

台風4号が上陸し当該地域も暴風雨に見舞われた翌日20日の下見では、通行不能箇所はなかった。当日朝、ルート上に、倒木のため通行不可の所があり、散策経路を急遽変更した。参加者80名は2台のバスに分乗し予定より30分ほど遅れて到着。森林館会議室で所長のご挨拶の後、バス1号車の40人を2班に分けて案内した。その間2号車は別メニューで絵馬の製作。散策は森林館から林間広場に行き酒匂川下流域の眺望を楽しんだ。参加者は若いカップルがほとんどで、カツラの純林の下でハート型の葉とその香りを仲良く楽しんでた。テレビ局の司会者が面白おかしく参加者やインストラクターを誘導しながら、「あっぱれ！KANAGAWA大行進」の番組収録が行われた。40分ほどで散策を終え、森林館の冷たい森の地下水でのどを潤した。次いで2号車の40人を同じように案内して12:20に21世紀の森での散策は終了し、参加者たちは次の目的地ビール工場へ出発した。(記 11期 鳥飼 一俊)

略号の説明 日:日付、場:場所、参:参加者、
 県:神奈川県、財:かながわトラストみどり財団、看:看護師、
 イ:インストラクター(○数字:期)

《お知らせ》

ニュースレター「しずくちゃん便り」
 ホームページは下記URLで見ることができます。
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f7006/p23426.htm>

かながわの水環境の
 保全・再生をめざして

かけがえのない神奈川の自然を守るために

やどりき水源林
ミニガイド

・7月のトピックス

21日、地元、足柄上地区スポーツ推進委員連絡協議会の(南足柄市・中井町・大井町・松田町・山北町・開成町)メンバー57名が水源林を初めて訪問。森の案内人2人に応援3人が加わりBコースをご案内しました。森林探訪とヤマビル観察・・・楽しかったの声をたくさん頂きました。

・8月の水源林

熱中対策と節電対策に涼しさを求めに水源林を訪れてください。森の案内人がご案内します。ご家族連れ、お友達を誘ってどうぞ。清流での川遊びもできますよ!!

「森の案内人」情報

●実施時間：毎週土曜・日曜・午前10時・午後1時1～2時間程度(12月1月2月休止)

●集合：水源林入口ゲート前

●内容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ・手入れなどについて説明いたします。参加自由、参加費無料

*10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。

●問合せ：(公財) かながわトラスとみどり財団 TEL:045-412-2255

携帯：090-8580-5348
fax:045-412-2300

●ホームページ：<http://www.ktm.or.jp>

●E-mail:midori@ktm.or.jp

●やどりき水源林までの道順

小田急線新松田駅またはJR御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約25分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩35分。寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内



内容:「箱根ジオパーク構想」の文字が入り、同構想のイメージにふさわしいもの
募集期限:平成24年8月10日(金)
募集要領:HPに掲載
URL: <http://www.hakone-geopark.jp/>
小田原市企画政策課 TEL0465-33-1379
または県西地域県政総合センター
TEL 0465-32-8903

◇森のなかま原稿募集◇

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

小沢章男まで

Mail:a.ozawa@tbz.t-com.ne.jp

Tel : 0467 -52-2191

送り先

<①電子配信担当> 赤崎 さほり

〒221-0865

横浜市神奈川区片倉 2-1-50

Tel/090-6150-6173

Mail:s_akasaki-k_instructor@live.jp

<②メール・手書き原稿送り先>

【本誌】松本 保

〒246-0037

横浜市瀬谷区橋戸 3-46-17

Fax: 045-301-9401

電話連絡先: 090-7962-3168

Mail : matsutamo@jcom.home.ne.jp

【別冊】水口俊則

〒250-0871

小田原市下堀 123

Tel/Fax : 0465-42-7240

Mail : minagold109@plum.plala.or.jp

【CCで】竹島 明

〒238-0045

横須賀市東逸見町 3-7

Tel/Fax : 046-825-9281

Mail : 12nahemi0818@kce.biglobe.ne.jp

原稿は随時受け付けています。

ジオパーク《Geopark》とは

科学的・文化的に貴重な地質遺産を含む自然公園。地質学(geology)と公園(park)を組み合わせた造語。

編集後記

★電子配信の担当になって今月が初仕事です。専用アドレスを取得いたしました。なにかお気づきのことがありましたら是非ご意見ご感想ください。

(赤崎)

★箱根の森小学校の間伐体験に参加していた2年生の女の子。小田原こいの森活動で2度もご対面。6年生になって遅く今夏は丸太切りに挑戦します。出合いが楽しみ!! (村井)

★電子配信の引き継ぎに立ち会いましたが、パソコンに長けたお二人の話し合いには入れませんでしたが無事終了致しました。

(小沢)
(森さんから赤崎さんへバトンパス)

★暑い夏は辛い物や熱い物を食べて乗り切ろう。東南アジア人の知恵です。でも熱い夏は自信がありません。熱闘甲子園球児に任せましょう。見ているだけで元気をもらえます。(松本)

◇年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込みください。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込みください。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記してください。

振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

(頒価 200円 送料共)

編集人:小沢 章男

事務局:竹島 明、

広報部: 水口俊則 松本 保

真貝 勝 鈴木 朗

鈴木松弘 大塚晴子

村井正孝 徳岡達郎

加藤暖子 赤崎さほり

森 義徳

まつだ観光まつり & 花火大会

2012 8/25 (土)

山麓のオアシス

～お食事処～

冷たいビールもお待ちしています

こまち

小田急 新松田駅
踏み切り際

緑の募金箱協力店

大名行列

